



## 模擬国連総会本会議 開会！

12月9日、県立広島大学を会場に模擬国連総会本会議が開会された。アジェンダは「万人のための教育」。論点は『グローバル・レポート』で提案されている。

まだまだ戸惑いを見せるデリもいるが、議場は積極的に動くデリもいるが、議場は積極的に動くデリの熱気で満ちていた。

模擬国連の説明とMDGsのゴール2「初等教育の完全普及の達成」に関するビデオが流れた後、チェアによって開会が宣言された。

ユネスコとUK大使による公式発言のち、ブルキナファソ大使の提案により、15分のコーカスに移った。

最初は戸惑いを見せていたデリも、地域グループで集まったり、自分の戦略に沿って仲間を見つけに行く者も見られた。スペイン大使からの

提案でコーカスは7分延長され、20分を超える非公式な交渉が行われた。コーカス終了後、オーストラリア大使、アゼルバイジャン大使による公式発言が行われ、第一回会合は終了した。

まだまだ手探り段階の大使がほとんどのようである。しかし、中には目標を持って動く大使も少なくなく、今後の動静に注目だ。

大使の中には、これまでの授業が活かされていない、自国のリサーチが不十分で主張が十分にできなかったと感じた大使も多いようである。

模擬国連では、何もしなければ何も身につかない。このチャンスを有意義なものにできるかどうかは、大使の心構え次第なのである。

## 貧困国＝お金がない？

ここでは、学生プレスによる記事を紹介する。

今回は前回の授業(12月9日)にて、模擬国連の説明の後、15分間のモーションの時間に話したこと、聞いたことを中心に述べていきたい。

私が主に話を聞いたのはニジェール・ガーナ・モーリタニア・イエメン・ボリビアなどの発展途上国の大使たちである。

話を聞く限りおおかたこれらの国は教育にあてる資金が圧倒的に少ない、教育の重要性がそれぞれの国民に浸透していない、たとえ子供に学ぶ意欲があったとしても子供は労働力扱いをされるといことが主な問題であるようだ。

しかし同じ貧困国でもすべての国がそのような状況ではないということも判明した。

ニジェール大使は「自国は世界最貧国の一国として認知されるほど貧しい状態です。それなのに校舎などの学校施設は多く建てられていま

す。それは先進国などが寄付金などで建設するからなのです。しかし教員は極端に少なく備品もないので結局は宝の持ち腐れ状態となっています。」と、話してくれた。

ここまではニジェールについて主に書いたが、アゼルバイジャンもいびつな社会形態が原因で教育制度こそ整っているものの貧困国に名を連ねていることを前回のプレゼンで大使が述べていたことも忘れてはならない。

詳しくそれぞれの国の状況を聞いてみると、各国で教育の現状、支援国に求めていることが明確に異なっていることがわかる。

現在の先進国の各貧困国に対する援助の方法は真の援助・支援といえるのだろうか。今回の模擬国連を通して、いま本当に必要とされている支援とは何なのか、各国にとってより良い解決策が導き出されることを私は願っている。(Y)

### モギコク ワン ポイント ガイド

### DRは何なん？

DR(Draft Resolution, 決議案)は会議で最も重要な文書です。会議は最終的には、各国の意見が取り組まれた文書(つまりDR)を提出して採択するのが目標となります。DRは投票で可決されれば、国連決議として世に公表されます。国連の公式文書となるのです。

ですから、提出には厳格な条件があります。(信太郎ブックを参考に書いてみてください。)

大使は決議の内容を自国の国益につながるものにするために交渉を重ねるのです。

# もぎこっかー養成講座 めざせ☆ベスト

なんだか複雑な手続きで行われる模擬国連。わけわかんねーっていうあなたにお届けする、模擬国連レクチャーです。第一回の今回は、「この一言、使えればかっこいいじゃん！」。

“I would like to move for the suspension of the meeting for \_ minutes.”

⇒会合の停止、つまりコーカスなどに移りたいときに使います。 \_ のところに数を入れて、大きな声ではっきり言えば、かっこいい。

いつ使うのかというと、具体的には各国の公式発言(スピーチ)が終わった後、チェアが

“Are there any more the motion?”

と聞くので、そこですかさず

“Motion!”

と言いながらプラカードを上げます。すると、チェアが

“Yes, (国名). What is your motion?”

と尋ねてくるので、冒頭の提案をすればいいのです。

その後、この提案は各国大使の投票にかけられ、過半数の賛成で可決され、コーカスに移ります。

※もぎこっかーとは…モギコクに全てを捧ぐツワモノ達のこと。ベストリとは…ベストデリゲートのこと。最優秀大使です。

## Speaker's List

(前回からの続き)

Bangladesh, Belgium

### フロントから

決議案の提出は切は来週の正午頃の予定です。今日は積極的に決議案を作成しましょう。

### 重要

決議案提出には、**スポ2カ国**、**シグ1カ国**が両方とも必要です。ただし、スポの数でシグの数を補足することができます。(逆は不可)

## いまここで世界を考えるために

### ～広島モギコクプロジェクト秘話～ vol.1

チェアである富田による連載です。何が語れるのでしょうか…

模擬国連は、広島にいながら世界を感じることができる素晴らしい方法です。なぜ素晴らしいのか。どうやって模擬国連をこの大学の授業に導入するようになったのか。その秘密をちよっぴりお話ししましょう。

学生が授業に不満を持っていることは、以前から学生アンケートによって把握していました。国際的な事に興味があって国際文化学科を選択したものの、入学後、「自分のやりたいと思っていたことと違う」「講義がおもしろくない」「授業に手応えがない」というイメージギャップを感じている学生が多く、それが学生生活全体の満足度を下げ原因になっていました。

一方で、教員スタッフに要求されている人材育成目標は次のようなものです。

地域文化に対する幅広い知識と洞察力を養い、既成概念にとらわれない柔軟な発想で、現代社会に対応できる問題解決能力と外国語運用能

力を備えた人材、自国の文化についての知識と敬愛の心を持ち、他国の文化、特に英米や東アジアの文化に対する理解を深め、人々の幸福と世界の平和のために行動する人材

「どないしたらそんなすごい人材がつかれるんやろか。」

他国の文化を理解すること自体、簡単なことではありません。本やネットなどからは短時間に多量の情報を得られますが、リアリティはあまり感じられません。テレビ番組や映画はリアリティは少しはありますが、情報の入手に時間がかかります。現地に行けば「百聞は一見にしかず」で分かりやすいし、リアリティもあります。限られた情報しか入手できません。コストもかかり、全ての学生さんに要求することもありません。

そんなことを感じながら、私は小手先の授業改善ばかりをしていました。

ある日、伊東・原先生と三人で、社会科学系の授業だけでも連携をして、なにか面白いことができないかと

### 用語解説

#### 「スポ・シグって？」

**スポンサー**(Sponsor: スポ)とは、そのDR(決議案)の主旨および内容を積極的に支持する大使。そのDRの投票では賛成しなければならない。**シグナトリー**(Signatory: シグ)とは、主旨および内容におおむね合意、議論する価値はあるとする大使。投票での制限は特になし。一つの国が複数のDRのシグになることも可能。

話をしていたいました。そこで話題にのぼったのが模擬国連でした。経験も知識もゼロ。やりかたもよく分からない。しかし、漠然と可能性を感じた私たちは、海のものとも山のものともつかぬ模擬国連を授業に導入する計画をスタートさせたのでした。

そして2005年夏、三人で模擬国連関西大会を見学するために暑い暑い京都に向かいました。そこで見たものは… (つづく)